

令和7年度埼玉県若年性認知症自立支援ネットワーク会議 会議録

日時：令和8年2月4日（水） 15時05分～15時50分
場所：オンライン開催

1 開会

- 今井地域包括ケア課長から開会挨拶

2 委員紹介

- 各委員から挨拶
- ※ 参加した当事者からも挨拶

3 議長選出

- 委員の互選により、議長に丸木雄一委員が選出

4 議題

(1) 「若年性認知症サポートセンターの活動報告」

- 資料に基づき、松本委員から若年性認知症サポートセンターの活動について報告

[後藤委員]

- 相談方法別実績のその他の中にはオンライン相談も含まれているか。
→ (松本委員)
- 企業担当者からの相談についてはオンライン相談を実施したことがある。
- 新規相談の状況で男性が多いというのは、お仕事されていて職場からのご相談が多いから、この件数につながっているのか。
→ (松本委員)
- 全国調査でも男性が若干多い。あとは、相談する方が女性の方が多いというのも若干あるかとは思っている。男性の場合はなかなか相談先に行かなかったりするため、奥さんが若年性認知症になった場合、後々から来る方が多いのかなと思う。

(2) 「課題検討」

- 資料に基づき、若年性認知症サポートセンターで課題と感じていることを共有し検討

①社会資源の周知

[神谷委員]

- 若年性認知症に関する社会資源の周知ができてないというのは、医者側にも責任があると思った。こういう情報は本人や家族はなかなか知り得ないことが多いので、なるべく社会資源のことに関しては、我々まず医者側からも、地域包括支援センターやその方のケアに携わる方からも積極的に進めてあげる方が良かったと思った。

[土居委員]

- 神谷先生は医師の立場からのお話をされていたが、私は老人福祉施設協議会という立場で聞いて、情報を我々もあんまり持っていないと実感したところであった。こういった活動報告もしかり、我々は情報収集して会員の方に知らせていくことをしていかないといけないと少し反省したところ。いろいろと情報をいただいて、それを周知する方法

を県と調整できたらと思った。

②市町村における若年性認知症に係る相談窓口

[長峰委員]

- 吉見町としては、認知症＝地域包括支援センターと認識はしていただいている。私たちが相談を受けたときには、自分たちの力を過信しないで、きちんとお答えをしてくれる支援者となつたり、架け橋になることが大事だと思っている。ただ、職員もだいぶ減ってきてしまい、現状、実働は3人になるので、マンパワー的に追いつかない状況がある。
- 一昨年、若年性認知症サポートセンターに、若年性認知症の方の相談をさせていただいたところ、電車も通っていない吉見町であるにもかかわらず、「相談乗りますよ」ということで駆けつけてくださり、その後、就労にもつながり、ご本人・ご家族様の心身ともに安定が図れた事例がある。県内で交通の便が悪いところでも対応していただけることを実感しているので、普及をもっとできるといいなど、感謝の気持ちを持ちながら思っているところである。
→ (松本委員)
- 吉見町ではノンストップできちんと情報が集約されていることがわかる。鴻巣市もそうだが、やはり推進員の中で中心となる方がいて、そこに情報が集約される方法が良いと思っている。

③その他

[花俣委員]

- 皆さんにコーディネーターからの報告を聞いていただいて、丸木先生から評価いただきありがたいなと思っている。今後の課題のところでは、松本コーディネーターから話があったことに私も同感している。先ほど吉見町からもご意見いただいたように、コーディネーターが、アウトリーチということで現地にすぐさま訪問に行ったという非常に良い流れを作った。本来であれば、地域包括支援センターに情報が集約されて、それが若年性認知症サポートセンターに流れてきて、連携の体制ができるのが望ましいけれども、一朝一夕にはできないだろうとも思っている。ただ、地域包括支援センターの人材不足もあるけれども、現在たった3名のコーディネーターでカバーしているという実情もあるため、サポートセンターの人員の見直しについても、今後検討していく必要があるかと感じている。
- それから、若年認知症の方の診断後支援についても、もう少しフォーカスしていただくと大変ありがたいなと思っている。やはり確定診断まで年単位で時間がかかってしまうので、早い段階から様々な負担が生じていたり、診断が降りる頃には症状が進歩してしまっていたりするケースも結構あるため、本人や家族のサポートというのも非常に重要であるということと、そのサポートが予後に大きく関わっていったようなことも、当事者からの発信として意見をいただいている。ピアサポートの重要性というのは、国も認めているところでもあるため、医療機関における診断後支援について、さらにしっかりと取り組んでいただけることに期待したいと考えている。

5 閉会